

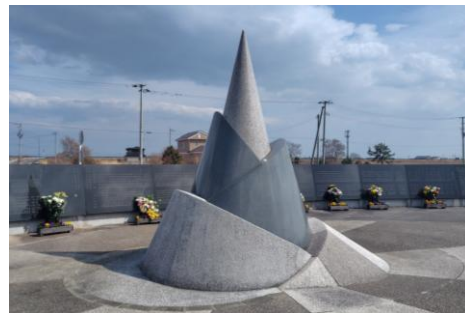
地区：山元町 震災語り部

ジャンル：震災語り部 バス案内

対象：

教育
旅行団体
旅行個人
旅行

やまもと語りべの会 町内復興見学



学びのポイント

- ・東日本大震災で山元町にどのような被害があったのか、避難がうまくいかなかった理由などを知りながら、過去の災害から学ぶことの大切さや、いざというときにどう行動すればよいかを考えます。
 - ・「多重防御による減災(※)」や、津波で被災したJR常磐線の内陸移転・高架化、防災交流センターの設置など、山元町における震災後のまちづくりや防災対策について学ぶことができます。
 - ・山元町を愛する語り部が伝える、地域の記憶、海と山、豊かな平野に育まれた自然や歴史、その風土が育んだ産業や復興の歩みから、自然と共生しながら地域を支えてきた人々の知恵や努力を理解し、地域の誇りや文化を感じるきっかけとなります。
- ※ 多重防御による減災：「防潮堤」「JR常磐線の旧線路跡を活用したかさ上げ道路(県道38号線)」を整備し、津波の力を減衰させ、避難時間に余裕を持たせる対策。平野部が広がる仙台湾南部沿岸地域(仙台市、名取市、岩沼市、亶理町、山元町)では、地形的に津波が内陸へ到達しやすい特性があるため、震災後、多重防御による津波防災・減災が進められました。

1. 内容

宮城県沿岸部の最南端に位置する山元町は、東に太平洋、西に阿武隈山地を望む、海と山に囲まれた豊かな平野が広がる町です。年間を通じて比較的温暖で、冬の降雪も少ない気候を活かし、いちごやりんごなどの果物栽培が古くから盛んに行われてきました。また、磯浜漁港で水揚げされるホッキ貝も町自慢の特産品です。

説明

東日本大震災では津波により町の約4割が浸水し、甚大な被害を受けました。近代以前の津波被害の記録や教訓が十分に伝承されてこなかったことも影響し、避難行動が遅れて多くの尊い命が失われました。また、JR常磐線の山下駅より南の線路は県境まで流出し、農地や漁港も壊滅的な被害を受けました。

地域を愛する地元メンバーで構成される「やまもと語りべの会」は、「山元案内人」として震災の記憶と教訓を後世に伝える活動を行っています。元学校職員、元公民館職員、防災士、ボランティア活動者など多彩なメンバーが、町内を巡る車中案内を通じて、震災の教訓、復興状況、防災の重要性を伝えています。

町内の車中案内では、旧JR山下駅跡地に整備された慰霊碑、コンパクトシティ構想に基づいて整備された新市街地、内陸側へ移設し、高架化した常磐線など、要望に応じたコースで案内します。

実施形態

車中案内

※参加者が乗車されてきたバスなどに、語り部ガイドが同乗して案内します。移動手段がない場合は、参加者のアクセスが可能な場所でのスポット案内となります。実施場所についてはご相談ください。


2. 情報①

所要時間	約90分～120分(応相談)
催行人数	1名～最大120名程度まで(大型バス3台まで) ※120名以上は応相談
実施可能時間	9:30～16:30
定休日	応相談
場所	集合場所:山元町農水産物直売所「やまもと夢いちごの郷」 ※町内であれば、どこからでもガイドの同乗が可能です(要相談) 案内エリア:山元町
予約受付	予約受付:山元町震災遺構 中浜小学校 ※詳細は「10.お問合せ・お申込み先」に掲載 案内実施:やまもと語りべの会

3. 料金

料金	町内復興見学(車中案内)：語り部1名につき7,000円(税込) ※車1台に語り部1名が乗車して案内します		
支払い方法	震災遺構 中浜小学校にて当日現金払い	キャンセルポリシー	なし

4. アクセス

所在地	<p><集合場所> 山元町農水産物直売所「やまもと夢いちごの郷」 〒989-2111 宮城県亶理郡山元町坂元荒井183-1 ※集合場所は希望や相談に応じて「やまもと夢いちごの郷」以外にすることも可能</p> 	
駐車場	<p><集合場所の駐車場> 山元町農水産物直売所「やまもと夢いちごの郷」：普通車:約140台、障がい者等優先3台、大型バス3台 <視察コース上の駐車場> ①山元町東日本大震災慰霊碑「大地の塔」：普通車30台、軽自動車8台、障がい者等優先2台、大型バス2台 ②防災拠点・山下地域交流センター「つばめの杜ひだまりホール」：普通車52台、障がい者等優先2台、大型バス3台</p>	
アクセス	車	[山元町農水産物直売所「やまもと夢いちごの郷」] 常磐自動車道 山元ICより約15分
	その他	[山元町農水産物直売所「やまもと夢いちごの郷」] JR常磐線坂元駅より徒歩約1分
各地からの所要時間	<p>[山元町農水産物直売所「やまもと夢いちごの郷」] ・仙台駅から車で約55分 ・仙台空港から車で40分 ・松島海岸から三陸自動車道～仙台東部道路～常磐自動車道を経由して車で約50分</p>	

5. 情報②

トイレ	<ul style="list-style-type: none"> ・やまもと夢いちごの郷：男性用・女性用・バリアフリートイレ ・つばめの杜ひだまりホール：男性用・女性用・バリアフリートイレ ・山元町震災遺構 中浜小学校：男性用・女性用・バリアフリートイレ ※山元町東日本大震災慰霊塔「大地の塔」には令和8年度にトイレを設置予定				
バリアフリー	ご案内中に下車する箇所があります ※下車箇所についてはご相談ください	買物 施設	<あり> やまもと夢いちご郷内の直売所 ※案内中の買い物時間は設けて おりません	食事 施設	<あり> やまもと夢いちごの郷内の フードコート ※案内中の飲食時間は設けて おりません

6. 注意事項

服装	歩きやすい服装・靴、雨具	
雨天時の対応	決行(雨具持参必須) ※内容が変更になる場合あり	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・バス等での移動が必要なプログラムです。移動手段がない場合は、参加者のアクセスが可能な場所でのスポット案内となります。実施場所についてはご相談ください。 ・天候、交通事情、復興工事等により内容が変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください。 	


7. 災害時の対応

周辺の避難場所	プログラム中に避難を要す場合は、語り部ガイドが自治体の指示に従い避難誘導します
---------	---

8. 出張・オンライン対応

出張対応	出張震災語り部可能	オンライン対応	なし
------	-----------	---------	----

9. その他

事前学習資料	山元町公式サイト「東日本大震災および津波の被害状況」 https://www.town.yamamoto.miyagi.jp/site/fukkou/324.html	
外国語対応	通訳が帯同する場合は可能	
周辺施設	山元町農水産物直売所「やまもと夢いちごの郷」：車で約5分 大條家茶室 此君亭(しくんてい)：車で約7分 casano-va 笠の場：車で約8分 山元町防災拠点・山下地域交流センター「つばめの杜ひだまりホール」：車で約8分 山元町深山山麓少年の森：車で約13分	

10. お問い合わせ・お申込み先

問合せ 申込み先	山元町震災遺構 中浜小学校 TEL:0223-23-1171 FAX:0223-23-1172 MAIL:nakahamaguide●gmail.com (●を@に変更してください) サイト: https://www.town.yamamoto.miyagi.jp/site/ruins-nakahama/index.html	
申込期限	実施希望日の20日前まで(原則)	

11. 案内ルート（例）：所要時間90分



ご案内コース例 【やまもと語りべの会 町内復興見学（90分コース）】

※町内であれば、どこからでもガイドの同乗が可能です(要相談)

待ち合わせ
・
見学
(下車)

新坂元駅周辺地区

- ・防災拠点・坂元地域交流センター(ふるさとおもだか館)
- ・山元町農水産物直売所 やまもと夢いちごの郷
- ・TSUNAMI(ツナミ)ハーレー展示館

災害に強いまちづくりを目指し、山元町が住宅や施設を集約・整備した拠点の一つです。防災拠点・坂元地域交流センター(ふるさとおもだか館)は住民の意見を取り入れて作られました。駅から徒歩1分の「やまもと夢いちごの郷」には、地元産農産物の直売所やフードコートがあり、観光農園の紹介やいちご狩りの受付も行っています。「TSUNAMI(ツナミ)ハーレー展示館」では、津波で山元町から流されカナダで発見されたハーレーを紹介し、津波の脅威を伝えています。



バス移動(約10分)

見学

新山下駅周辺地区(つばめの杜地区)

- ・山元町役場
- ・防災拠点・山下地域交流センター(つばめの杜ひだまりホール)

新山下駅周辺は住宅地としての機能に加え、町の行政や防災の拠点として整備されたエリアです。防災交流センター(つばめの杜ひだまりホール)は、普段は住民の交流の場として利用される一方、災害時には避難所や支援活動の拠点となるよう設計され、備蓄倉庫や耐震性の貯水槽などの防災機能が備えられています。



バス移動(約3分)

慰霊
(下車)

山元町東日本大震災慰霊塔「大地の塔」

旧JR山下駅跡地に建てられた高さ3.11メートルの慰霊塔で、「慰霊」「復興」「記憶」「願い」の思いが、竹の地下茎のように広がるデザインとなっています。また、毎年3月11日午後2時46分には、塔の影が犠牲者の名前を刻んだ刻銘板に埋め込まれた水晶と重なるように設計されており、震災の記憶を未来へ伝えています。



バス移動(約5分)

慰霊
(下車)

常磐山元自動車学校 津波犠牲者慰霊碑

海から約750メートルの場所にあった常磐山元自動車学校は、東日本大震災の津波により、教習生25名と職員11名が犠牲となりました。学校の跡地に建立された慰霊碑は、遺族や地域の人々によって守られ、犠牲者への追悼とともに、災害時の迅速な避難の大切さを教訓として伝承しています。



バス移動(約5分)

県道38号線(通称:ストロベリーライン)

内陸に移設されたJR常磐線 新地駅～山下駅間の旧線路跡を活用し、津波から地域を守る防災機能を備えた道路として整備されました。道路は高さ5～7メートルに盛り土され、2車線の構造となっています。

見学

磯崎山公園

山元町の南端にあり太平洋に面する標高約13メートルの丘陵です。伊達政宗公が初めて海を見た場所と伝えられ、江戸時代には仙台藩が外国船を監視するための御番所が設けられました。現在は公園として整備されており、東日本大震災では地域の人たちが避難し助かりました。



バス移動(約7分)

見学(外観)
・
案内終了

山元町震災遺構 中浜小学校・黄色いハンカチ

東日本大震災で、屋上に避難した児童や教職員、地域住民ら90名の命を守り抜いた校舎です。津波の痕跡や証言映像などの展示を通じて震災の教訓を学ぶことができます。

校舎横の広場に掲げられた多くの黄色いハンカチは、震災後に町内の避難所で掲げられたことをきっかけに、毎年架け替えられながら希望の象徴として受け継がれています。

